

令和5年度 奈良県立国際高等学校 学校評価総括表(年度末報告)	
(高等学校用)	
年度	令和5年度(中期計画2年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な人々との積極的なコミュニケーションを通して、グローバルな視点でものごとを捉え、国際社会の平和と発展に貢献する資質・能力を育成します。 ○ 強い探究心と主体性をもって、国際社会で新たな価値を創造していく自律した態度を育成します。 ○ 国際社会で求められる自らを尊重する精神と豊かな感性を育成します。 ○ 健やかな心身により、国際社会で活躍するための旺盛な行動力を育成します。
年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ESDの推進 ○ 「主体的・対話的で深い学び」の推進 ○ 生徒の健やかな心身育成のための支援 ○ キャリアデザイン力の育成 ○ 学校の円滑な運営 ○ 働き方改革を念頭にいた職場環境の整備 ※具体は別シートに記載

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針(スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	<p>本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の使命や育成を目指す資質・能力を理解し、教育課程全般に前向きに取り組むことができる生徒 ・中学校段階で求められる基礎的な学力を身に付けている生徒 ・多様な人々とのコミュニケーションに意欲的に取り組む生徒 ・国際社会の平和と発展に貢献する意欲をもつ生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	<p>本校では、Mission実現のため、以下の教育を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用により個別最適な学びを目指します。 ・探究活動をはじめとするあらゆる教育活動を協働的な学びを推進します。 ・学校設定教科「国際教養」を中心とした系統的総合的な教育課程を編成します。 ・社会に開かれた教育課程の実現に向けて学校全体でカリキュラムマネジメントを徹底します。 ・「世界とつながる高校。」をテーマにグローバル教育を推進します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	<p>本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の様々な課題について、探究心をもって課題を発見し、解決に導く。(探究力) ・自分の考えや常識にとらわれず、創造的に考え、新たなアイデアを生み出す。(創造力) ・文化や言語の違いを超えて、協力・協働しながら互いに高め合う。(協働力) ・文化や考えの違う他者の意見や存在を、社会をよりよくしていくための重要なものとして受け入れ共に高めようとする。(寛容さ) ・課題について、失敗を糧にしながら意欲的に解決に向かう。(挑戦力、レジリエンス) ・希望する進路に向けて、課題を把握し、解決のために行動を起こす。(キャリアデザイン力)

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

※A:達成している B:概ね達成している C:改善が必要である

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. 心ここちと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	教育相談体制の充実	教育相談体制の推進	個別の生徒対応度85%以上	個別の生徒対応度86.8%	A	A	カウンセリングシステムの保護者・生徒への周知を強化していく。働き方改革を推進することで、教員が生徒に向き合う時間を確保する。
	学校保健活動の充実	バランスのとれた感染症対策と教育活動の実施	学校保健委員会の開催年2回	3月に1回開催予定	B	B	今年度はインフルエンザによる休業が4回あった。引き続き、感染防止対策に力を入れていく。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり	個人探究時間の活用	授業満足度75%以上	授業満足度81.1%	A	A	個人探究時間の前後や授業交流期間の積極的な活用方を検討する必要がある。
	ICTの効果的な活用	アプリ活用などの好事例の共有	ICT活用度70%以上	ICT活用度79.7%	B	A	アプリなどの個に応じた活用の仕方について、研究を進める。令和8年度を目標に端末の自由化を検討する。
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	働き方改革を念頭にいた職場環境の整備	分業間の連携・調整	総合健康リスク100以下	107	C	C	診断結果を分析し、検討チームを立ち上げて、業務改善を図っていく。外部の支援員の活用なども検討する。
	キャリアサポート体制の整備	2期生の進路実現に向けた全校支援体制の構築	キャリア支援度80%以上	進路支援度84.8%	A	A	多様な進路希望や入試等に学校全体で対応できる支援体制を構築する。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	インターンシップやフィールドワークの充実	受け入れ機関の開発	インターンシップ・フィールドワーク参加者100%	96.7%	B	B	アカデミックインターンシップを充実させる。大学での先取り履修が可能になるような仕組みを検討する。
	平和の文化の促進(グローバルマインドの高養)	海外連携校の開発	海外連携校7校	オンライン交流実施校9校	B	A	交流校の生徒の受け入れや交流校訪問など、対面での国際交流を充実させる。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	外部機関との連携の促進	大学や地域など関係機関との連携強化	外部機関との連携回数 40回	外部機関と連携した行事の回数93回	A	A	連携が多岐にわたるため、連携の窓口を整える必要がある。
	国際視点の人権教育、多文化理解の推進	豊かな心を育む人権教育推進体制の構築	満足度90%以上	満足度89.3%	B	B	ミッション実現のための取組を継続するとともに、広報活動にも力を入れる。授業体験などを通して、保護者の理解を深められるよう取り組む。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	個に応じた指導の効果的な実施	より良い観点別評価の方法	多面的評価満足度85%以上	多面的評価満足度88.4%	A	A	主体的な学びの評価の好事例を共有し、より一層指導と評価の一体化に努める。
	特別支援教育の推進	個別の指導計画の活用徹底	個別の学習指導計画シート活用率100%	個別の学習指導計画シート活用率100%	B	A	支援が必要な生徒に学年、学校全体で対応できる体制を構築する。学校全体のユニバーサルデザインを推進する。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

学校に対する満足度は生徒・保護者の全平均が89.3%と概ね目標を達成できた。その他の項目においても7月、2月に実施した保護者、生徒向けアンケートの結果で目標値を達成することができた。ミッション実現のための取り組みが多岐にわたる。教職員はそれぞれの役割を十分に果たしているが、業務量が多く、全体的に教員が疲弊傾向にある。中学校開設とともに、さらに教員の業務が増える傾向が大きくなっている。次年度に向けて、働き方改革検討チームを立ち上げて、行事の精選や事務の簡素化などに取り組むたい。